ができてもよいと思う。モデル的に事業展開してはどうか。

答 民間事業者の数は、先進地ほど多くなく、実施するとすれば、まず体制整備から始めなければならない。また市民のニーズと、他の子育て支援事業等がある中、優先度等を判断し検討したい。

問 不妊治療、不育治療、産前産後ケアについて質問してきたが、市長の考えは。

答 医療機関、そして不妊治療に関して日本は世界一である。そういったところのデータを基に、厚生労働省は42歳未満の方に関して不妊治療を認めると判断したのだと考える。子どもを授かるには様々な努力が必要だが、リスクも伴うとデータからもうかがえる。我々の地域のデータをしっかり集め考えていきたい。

一般質問

松尾 高英

（いずれの会派にも所属しない議員）

橿原市のまちづくりについて　生物多様性

問 生物多様性地域戦略についての本市の考え方は。

答 県内の市町村ではまだ策定をされたところはないが、今後その方向性、基本的な考え、また自然環境の持続的利用、生物多様性を活用した地域づくりなど、総合的な取り組みを進めていく上で、地域戦略を持つことが大事である。先進事例を参考にしつつ、地域戦略策定に向け検討したい。

問 昆虫館が果たせる役割は。

答 平成24年度より、対象を動植物にも広げており、自然史博物館として調査・研究・教育・啓発の機能を拡張している。また、開館以来、標本等の情報の集積も実施している。今後、本市の地域戦略の策定を検討していくが、策定、実施に際して、市独自の生物多様性センターとしての役割、生物多様性保護のための中核的な施設としての役割を十分担っていけると思う。

問 戦略策定した自治体の約9割が、地域活性化、産業振興と関連づけて言及しており、特に観光、交流型産業の振興について関心が高いというデータがある。いかに経済活動につなげるかを重視している。自治体の戦略として、観光面での考えは。

答 観光と交流型の産業の取り組みや育成の可能性をしっかり研究した上、観光面でどのようにやっていけるのか、また、本市単独ではなく広域で考えていくべきかということも含め、今後検討したい。

問 生物多様性の教育の意義について、どのように考えているかを、教育長に聞きたい。

答 地域の主人公となっていく子どもたちには、生物多様性の喪失の危惧についてしっかり学習する環境を与えていきたい。幸い昆虫館があり、そして飛鳥川がある。昆虫館からの出前授業、そして昆虫館への見学等も含め、この郷土の自然を守ることの大切さを体験できるような環境を与えていきたい。

昆虫館

橿原市の教育行政

問 市内中学校に関する重大事態において、生徒に行ったアンケートの調査結果やその結果の詳細や件数が十分に検証される前にメディアに流れ、しかも議会等に報告があった内容と異なっていた。しっかり検証されていない風評等が原因で2次被害や3次被害が起こる可能性もあるが、これらの対応をどう考えているか。

答 アンケート結果の報道については、実際の内容と食い違う部分があるが、情報発信についてはご遺族側と協力し、双方の意思確認を密にし、予断を持たずに正確に発信していきたい。2次被害等については、マスコミへの生徒本人への直接取材の自粛を要請し、学校ではカウンセリングの時間の増加によるケアの充実を図っている。今後、生徒・保護者へのメンタル対応のため、医師会への協力依頼等、ケアに取り組んでいきたい。

問 事後対応ばかりになっているが、事前の対応についてはどう考えているか。

答 非常勤講師として、いじめ対策指導員を配置している。また、今年度からは、スクールライフサポーター制度も開始しており、学校、先生方等の支援に当たりたい。

問 スクールライフサポーターとは、どのような組織か。

答 警察や市の元学校教員のOBの方で構成されている。現在、警察OB2名と元学校教員1名の計3名の方が週3回学校を巡回指導し、豊富な経験を生かして教職員らに助言を行い、生徒指導のスキルアップに努めている。

問 今年の重大事象後も同じような形で行われているのか。

答 本来は、週3回、各校を満遍なく巡回する計画であったが、特に事象が起こった学校を重点的に巡回していただいている。

問 他校が手薄になっているように聞こえる。事前対応と事後対応の考え方があまり明確になっていないのでは。

答 時間的なこともあり、手薄になる部分があることは否めない。ただ、予算も伴う話ではあるが、そういった部分の充実も場合によっては必要になるかと思う。今後は、事